

ビルマ方面部隊略歴

その
一
一

1192

✓ 第十五師団第四野戦病院

写 真	概 要
四三〇	部隊は南方承遣の愚結成を完結し同月下旬上海周辺に集結を命ぜられ
五〇〇	上海郊外揚行鎮に到着
五〇〇	爾后教育訓練を実施す
五〇〇	船泊輸送の閑餘上馬車部隊を先発せしめ本隊は六月六上海港上陸
五〇〇	佛印西貢に上陸 後河船泊並鉄道輸送に依り「ブノンペン」を経て
五〇〇	盤谷に到着同地にて昭南「アララシプール」を経て盤谷に到着、荷役しあ
五〇〇	りたる先発馬車部隊を掌握し再び鉄道輸送により十月二十七日「チエン
五〇〇	マイ」に集結す
五〇〇	一部を以てカニ野戦病院より「パーテート」患者療養所を引継ぎ「トンブー
五〇〇	並建設作業隊の番番の収養輸送に努め主力は専ら教育訓練を実施す
五〇〇	中旬「ビルマ」賑賃の命を授け同日「パーテート」患者療養所を閉鎖
五〇〇	本隊に復帰せしめ爾后の行動を準備す
五〇〇	下旬 邦団は「ランパーン」に至り茶緬國境の前進を決定せられ部隊の一
五〇〇	部を以つて「チエンマイ」、「モンパマック」、「ヌカヲ」に患者療養所を開設し

()

年月日	概 要
昭和二八 一一、二九	<p>行動向の患者収療に任せしめ主力は鉄道輸送により「ランパイン」に到着 又て自動車輸送により「デエンライ」「モンパマック」を経て 「ケンタン」に到着直ちに野戦病院を開設患者の収容輸送に努む</p>
一一三〇	<p>延床救護隊委員の差支の命せられ將校以下二〇名を之が要員となし 既に「イムパール」に向ひ前進中の歩兵六十隊隊を追反せしめ尙</p>
一九 一一五	<p>「モンパマック」「タカラ」の患者療養所を閉鎖し大々をして新に「ワンコン タン」「ロイレム」に患者療養所に移動開設せしめたり</p>
一一〇	<p>当時漸く敵機の跳躍活発となり一月十八日主力は空襲を蒙りしも一部 病室を焼却失せるのみにして人馬の被害皆無かりき</p>
一一	<p>急遽部隊主力の前進を命せられ 「ケンタン」野戦病院を閉鎖して半部を以て患者療養所を開設せしめ</p>
三二八	<p>主力は行軍を以て岑登「タカラ」「ケジマンサン」を経て「シポー」に到着 同地より更に鉄道輸送により目的地「マンメレー」「サガイン」「シエポー」 を至て 「ウント」に到着す 当時師団司令部に連絡のため「シポー」を先発せし部隊長は「レウ」にあ</p>

(?)

年 月 日	概 要
昭和一九四、一五	<p>リ部隊の到着を待つ</p> <p>「ウント」は祭兵団前直の要衝にして敵杖の跳躍熾烈なるものあり。部隊到着の翌日午後敵杖の執効なる空襲を受け、塵蔽下に分散配置しありたる主力携行の養生材料を始め、隊属貨物は焼夷弾により全く灰塵に帰し、爾右の行動に支障を来すに至れり</p> <p>依つて直ちに「レウ」にありし部隊長に報告の上時既に「ゲンタン」患者療養所を閉鎖し部隊主力を追返中のオニ半部の養生材料到着を待ち「レウ」「ウント」間に騒動しある敵空延部隊を強行突破し急直すべき命を受け、之が行動を準備す</p> <p>オニ半部「ウント」に到着す</p> <p>依つて直ちに養生材料の整備を完了し「レウ」に向ひ前直せんとするに当り「レウ」「ウント」間の敵空延部隊の行動、俄かに活発化し、之が敵中突破困難なるを以つて祭兵団直及部隊は爾右「エウ」「カレワ」隘を前直すべき旨軍令を受く、</p> <p>茲に於て再び予途を喪り、鉄道輸送により「ウインドー」を発発「キヌ」を経で「エウ」に到着す</p>

(8)

1195

3の外
ヒルマ
夫の

年月日	概略
昭和一九、五、三二	<p>列車輸送途中再び空襲を蒙りしも馬匹六頭を失ひのみにて其の他損害はかりき</p> <p>「エウ」到着直ちに自動車輸送により急直すべく之が輸送を請求せるも意の如くならず 止むを得ず行軍に依り「ピングイン」「ムータイク」間の無水地帯を強行突破すべく計画準備す</p> <p>而して師団司令部との連絡終了せる部隊長は「フミネ」「ダム」「カレワ」を経て部隊を掌握すべく反動し</p> <p>「エウ」に到着す</p> <p>準備全く完了し</p>
五三〇	<p>行軍により「エウ」を発生す 時節く雨期に入り無水地帯を無事通過し</p> <p>「ムータイク」「セーツン」を経て「チニドウィン」河を渡りし</p>
六一三	<p>「インタンギー」に到着 オ一。五兵站病院分隊の業務を引継ぎ</p>
六一三	<p>「インタンギー」に野戦病院を開設す</p>
六一三	<p>在「ダム」兵站衛生隊長の命により一部を以つて、オ三十三師団 オ一野戦病院「モーレ」患者療養所の引継及「ダム」「フミネ」間の衛生材料輸送に任せしむ</p>

(8)

1196

年 月 日	概 要
昭和一九七三 七、一七	<p>部隊主力は前直を命ぜられ 同日「インマングー」野戦病院を閉鎖し 再び之が業務をオー。五兵防病院分院に引継ぎを発す</p> <p>時既に本格的雨期に入り連日連夜の降雨に道路は全く泥濘と化し、麻 も車輛も泥人と泥中に没し加ふるに右方よりの糧秣補給全く絶えて人 馬の疲労甚しきものあり</p> <p>漸くにして「カンパット」河畔に到着す</p> <p>然るに連日の降雨に「カンパット」河は増水著しく、濁流濁を巻き、橋 梁既に流失し渡河の道全く断れ</p> <p>依つて部隊各自ら挺身連絡の上、在「カンパット」軍参謀より師団主力は 既に軌直作戦に授けあるを以て直ちに反転すべしとの指示を受け</p> <p>反転を開始す</p> <p>時正に降雨益々猛威を奮ひ泥濘更に其の度を加へ糧秣又欠乏し、人馬 の疲労困憊其の極に達し特に日を迫て馬匹の斃死するもの多し「カレワ」 到着時生存せる馬匹僅に数頭に過ぎず 従つて車輛隊糧秣物の大半又 焼却又は埋没処分するの止むなきに至れり</p>

(10)

1197

年 月 日	概 要
昭和一九、八一五	<p>「ガレワ」に於て右方狂生隊関を閉鎖し部隊主力を直反せるものを掌握し、再び「テンドウイン」河を渡河し「シエーシン」到着、爾后自動車輸送により</p> <p>漸く「イエウ」に到着</p> <p>専ら給養休養の適正を計り体力の恢復に努め、爾后の行動を準備す</p> <p>軍の全面的転進に移るや師団兼結地たる「ウントー」「ポンブレ」に夫々野戦病院並患者疎養所の開設を命ぜられ、面ちに「イエウ」出發「ギヌ」より疾道輸送により再び「ウントー」に到着休養の暇もなく、開設準備の完了を俟って</p> <p>「ウントー」野戦病院を開設す</p> <p>この間軍より派遣せられし「相沢隊」を指揮下に入れ行軍部隊への温食給与を実施せり</p> <p>開設所の収容患者は其の数三千有餘なり</p> <p>中甸全患者を任「サガイン」狂生隊関へ右送すべく「テヤテン」「カンバル」に夫々患者集合所、患者療養所等の中継所を設け、自動車及疾道輸送力の不足に苦しみつゝ而も執拗なる敵寇の跳躍と不眠不休、努力を続</p>
昭和一九九一〇	<p>二、</p>

(//)

年 月 日	概 要
昭和一九二二	<p> け以て二千有余、患者を送る迄逐せり 部隊主力は「イラワジ」河畔合戦参加の爲、野戦病院反慮荷寮養所を用 儀し「ウイントー」を発南進途中 昭和十九年軍令陸甲六一四〇号により才四野戦病院の復帰を命せられ ここに部隊は解散するに至り 人的戦力の推移状況 別表の如し（但し資料既に焼却処分せるに付單は概数にして其の正確 は期し難し） 宿営休養給水行軍に関する状況 一、 砲直並次期你賦準備へ自昭二六、七、三、 至今一九、三、一四） イ、 宿營 湯行候兵舎は「トタン」屋根の既設建物なく「チエンマイ」市は寺 院内の土地を利用し竹材「テーク」葉を以てせる兵団建設の建 物「ケンタン」は公設市場の建物を利用し瓦屋根「コンクリート」 床にして周囲を竹製「アンペニ」を以て囲むたるもの、其の他行 </p>

(12)

8111

4の9

ヒルマ

具の

耳
月
日

概

要

勅向は民家、軍建設の兵站宿舎を利用し、或は露宿せり、
 場行餓「チエンライ」「ケンタン」共に一人平均氣谷約八立米を有し
 隘凡、採光共に良好なりき「チエンライ」「モンパマツフ」
 「タカオ」「ワンコンタン」の各療養所も亦竹、木「チーフ」葉によ
 る建物に宿營せり「ワイレム」療養所は優秀なる既設建物を利
 用せり

口、休 養

場行餓へ救済積習等を専らとし病院を開設せず「チエンマイ」
 (病院を開設せず)「ケンタン」(病院開設す)各療養所は環境
 良好、行動用は船舶輸送の危険を除き適度の休養を得ら
 たり

公 給 水

場行餓は水源乏、板井戸にして「タンク」の時水を各宿舎に配
 水せる水道なりしも水質悪く且水重豊富ならず 然れ共 特
 別の不便を感せしことなし「チエンマイ」「ケンタン」各療養所
 及行動向は井戸或は流水を利用し水質良好水重又豊富に得り

(13)

1200

日 月 日	概 要
	<p> 概 要 たり 三 行 軍 陽行嶺より「フリンペン」匠は船舶輸送其の他は概ね車送にして 一部馬匹部隊のみ「ランパーン」「ケンヌン」向を行軍し尚「ケ ンタン」「シポー」向は部隊主力は行軍せり 2、「ウ」号作戦 九号作戦並次期態勢移動の爲作戦 (自昭一九、三、一五、至全一九、九、一三) 4、宿 營 「ウントー」は軍建設にかゝる兵站管理の竹材アンペラ製ニッパ 葦の兵舎にして通風、採光共に良好 「イエウ」は兵站管理の 民家を利用し分敷箱倉レ通風、採光共に良好なり「インタンギ」 は庚百五兵站病院分虎の建設せる竹材「ソング」葺きの建物にし て狭隘且通風、採光共に不良なりき 行軍向は殆んど露管に して「イエウ」を發時漸く雨期に入り 特に師団主力を直反す </p>

1201

年 月 日

概

要

へく「インタンギー」を号発せし以来、恰も本格的兩期に際合し勉めて置を葦き上陸、ウチ床等をほし、密営せしも、大半は瘴癘の下路上に於て起伏せり「カンパント」より反転節「ウント」野戦病院開設の際は自動車部隊の建設せるウチ床ニッパ葦の建物を修理利用せしモノ棟に余る病室は自隊の兵力を以て建設せり

向れも敵空襲を顧慮し密住せるウチ床内に位置せるも以て、通風、採光共に極めて不良なりき

口 休 養

進行時「ウント」「イエウ」待機間は休養程ね可なりしも「イエウ」号発以来再び「イエウ」に反転するの間、長期に亘る兩期の悪環境のもと連日連夜の行軍にして各種輸送機関の杜絶の焉糧秣乏し更に激烈なる空襲と敵況の变化による精神的打虫と相俟ち疲勞困憊は其の極に達し加いに病癒の遅延甚しく行軍困難れしもの尠らず、將兵の体力極度に消耗せり

(16)

年 月 日	
要 概	<p>「ウントー」野獣病院開設当時未だ体力恢復の暇なく病室の建設、患者の収療着議、敵機跳下の患者護送并處度の休養を得るに至らざりき</p> <p>(ハ) 給水 行動間は概ね雨期にして水質良好ならざるも容易に得れたり 「イエウ」「ウントウ」待機間は約三〇〇米距離たる河水利用せし も、水質概ね良好なりき</p> <p>(ニ) 行軍 「シポー」「ウントー」「ギヌ」間反転時の「ギヌ」「ウントー」間は列車輸送「ギヌ」「エウ」間は自動車輸送、其の他は總て行軍にして道路は全く泥濘化し難波辛酸を極めたり</p> <p>了 艦保嶽 イ 宿舎 （昭一九九一三 至全一九一七）</p>

(16)

1203

年月日	概要
	<p>三、行軍</p> <p>「イラワザ」河畔合戦に参加の爲「ウントー」を宍發す 時既に雨期も去り、道路平坦良好にして何等苦痛を感せしことなし</p> <p>4、気象、地形の人的軟力に及せる影響</p> <p>1、藍匪並次期作戦準備 中支揚行嶺は日中暑熱甚しきため、温差大にして感冒性疾患多 発せるも平坦地にして大なる影響なし</p> <p>泰國「チエンマイ」「チエノライ」共に影響なし</p> <p>北ツマン州「モンパメック」「ゲンタン」「タカオ」「ワンコンタン」「 ロイレム」等は稍冷寒の候なりしも、概ね快適にして悪感作認 むべきものなし</p> <p>2 「ウ」号作戦、九号作戦並次期態勢移行の爲作戦 本期尚ほ概ね雨期にして降雨多く日差大巨密林地帯の行動はり</p>

年 月 日

概

要

3 監視

しを以て痔漏多発し人的戦力に及せる影響甚大なるものあり
兩期未だ明けやらす密林内に宿營せるを以て日射乏しく濕度大
にして人的戦力に及ぼせる悪感作動からず

5 患者収養、後送の状況

附表十二の如くも資料既に焼却処分せらるに付其正確は期し難し

6 彼採戦法の時に人的戦力反患者収養後送に及せる影響

區分	航空勢力	行動	兵站線確保	摘	要
状	劣	夜	不良		
彼	優	昼	良		

我が航空隊の活躍殆んど皆無はるに反し彼の航空勢力優勢にして
或は直捷、或は空挺部隊運用により我の前方進路方面断絶等を敢

年月日	概	要
	参加せる主要なる作戦(戦斗)の概要	死傷、損失 戦死 戦傷死 戦捕死 給与、衛生
	1. ミヨホン附近の戦斗	自一九二二、一 至二〇、一、二七
	2. ミエボン附近の戦斗	自二〇、一、一 至二〇、一、二五
	3. カンガワ附近の戦斗	自一九二二、五 至二〇、二、二六
	4. トマンド附近の戦斗	自二〇、二、一七 至二〇、四、四
	5. シモウ附近の戦斗	自二〇、四、五 至二〇、四、一五
	6. サリン附近の戦斗	自二〇、三、一 至二〇、五、五
		71 34 118 353 37 7
		1 4 14 4
		1 3 4
		地の戦斗に於 又「バウカン」平 リ「多発せり 分のため「マラ 征生資材不充 現地自活に依 るも其の他は 糧秣を使用せ は作戦果結 の戦斗に於て カニガワ附近

6の頃

ビルマ

英の

年 月 日	概	要
	7 ピオボ工附近の戦斗 自二〇、四、三〇 至二〇、五、二〇	ては若干の「コレ」の発生を見る
	8 パロウ附近の戦斗 自二〇、四、二八 至二〇、五、二七	1
	9 イワワゲ渡河の戦斗 自二〇、四、二一 至二〇、五、二六	8 上記の外昭和三年七月二日生
	10 プロム待道の戦斗 自二〇、五、二七 至二〇、六、二	死不明夜中五〇ハ呂殊死
	11 パウカン附近の戦斗 自二〇、六、三 至二〇、六、二六	1
	12 シツタンの窓破の戦斗 自二〇、六、一七 至二〇、九、六	12
	13 インパール作戦(前期)	3
	14 インパール作戦(后期)	48
		16
		22
		276
		68
		3
		34
		40
		21

(23)

1210

✓ 第五十四師団第ニ野獸病院

日 月 日	概 要
昭和二八、二、一七	勅令下令 備成完結
一八、四、四	門司巻々発
一八、六、三	昭南上陸
一八、七、三一	恭頌陣傍飯直建設業齊並に病院開設
自今一八、九、二〇	ハ号作戦中「アラカン」山系に於て獸死兵一員 病死兵一員
至一八、一三、〇	完作戦中「アキヤブ」果「ヨーホン」に於て獸死將校一員 兵一員
自一八、一、一七	「アラカン」山系及「イラワジ」附近に於て獸死下士官、兵六員 病死
至一九、五、三一	下士官、兵八員 「アレチヤン」附近に於て獸死兵一員 生死不明兵
自一九、六、一	一五員 病院に依り將校一員 兵一員入院後送付不明(恭頌)
至二〇、五、三一	

(25)

1212

耳 日 日	自昭和二〇、六一 至 二〇、八、五
要	<p> 遭炸域中「ペグ」ト山采段トシグー泉 シツタン平野に於て戦死將校三君 下士官兵十君 病死將校一君 下士官兵十五君 生死不明將校一君 下士官兵一〇三君 敵手に入りたるもの九君 終戦后 病死 六君 歴代部隊長 軍医少佐 毛利 明 弘 部隊事情通者 陸軍々医大尉 西村 幹 夫 陸軍采制大尉 岡田 周 次 陸軍征生准尉 上井 博 </p>

▽ 第四十九師団大野戦病院

(狼 一八七一四部隊)

年 月 日	概 要
昭和一九、五、三七	部隊稼歴 概要 師団動員下令
六、二	臨時召集のため歩兵百十一連隊補充白鷹百
七、三	内司港々帆
九、八	比島マニラ港着
一〇、一七	マニラ港々帆
二、三	昭南上陸
三、二	昭南発鉄直伝送
三、三	ビルマ国ペーゲー泉着
自全二〇 一、一	盤作戦参加
四、九	

(27)

1214

日	月	日	概	要
自	昭和	二〇、四、一〇	克作	参加
至	全	五、三一		
自		六、一	望作	参加
至		八、二四		
昭和	二〇、八、一四		終	賦より帰還区の概要
自	全	八、一五	終	賦の大詔を受く
至		九、三七	終	賦前より引続き「ダント泉」
自	全	九、二八	「ダント」に於て野	賦病院開設
至		一三、三八	「ダント」泉「ドインセ丹」	ゴム林に移駐
自	全	一三、二九	英軍協力作業に従事	
至		三、四一六	「バプン」泉「バプン」	並「ダトン」泉「ナチ」に移駐
			英軍協力並路作業に従事	此の向一部を以て「ナチ」
			並「ピリン」パフ	
			「並路六七哩地帯に夫々患者療養所を開設	
			作業員の罹病患者を収容する	
			収容患者約八〇〇	

8
の
外
中
#

ビルマ

其の

(30)

1217